

方策進行管理シート

令和5年度 尾道市立長江中学校

短期経営目標	目標達成のための方策	活動	7月	1月	活動達成度	方策達成度	取組評価
			目標数 達成数	目標数 達成数			
○学習内容の確実な定着 ・知的好奇心を喚起する授業実践 ・新たな価値観を見いだせる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 各教員、各教員、「探究」「各教科」において、年1回以上の研究授業、単元開発の実施 小中の接続を意識し、9年間を見通した総合的な学習の時間の単元開発 	<ul style="list-style-type: none"> ①各教員、「課題発見・解決学習」となる、知的好奇心を喚起させるような授業研究を年1回以上、単元開発を1単元以上の実施する。 ②公開研究会において実践を市内中学校へ発信する。 	①40% ②0% (11月に実施)	①80% ②100% (11月に実施)	①A ②A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全教員が担当教科において単元開発を行い、「課題発見・解決学習」となる研究授業を実施した。研究授業後は協議を行ったり、指導主事から指導助言を受けたりすることで、各教員の授業改善につなげることができた。 ○11月の公開研究会において、探究的な課題解決に向けたプロセスを取り入れた総合的な学習の時間の授業を全学年で実施、公開することで、今年度の自校の実践を発信し、成果普及に資することができた。
			①9% ②0%	①100% ②100%			
○「学びの風土づくり」三原則の徹底と深化による「長江プライド」の醸成と自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に企画する活動（挨拶運動や地域貢献活動等）への支援 生徒の主体的な活動に対する教師による肯定的評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①挨拶運動等を、生徒会執行部・専門委員会を核として、主体的に企画・運営させる。 ②行事の際はもちろんのこと、日常生活においても、生徒の主体的な活動に対して肯定的評価を行う。 	①1回以上企画 ②職員全員が実施	①3回以上企画 ②職員全員が実施	①A ②A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動を中心に、部活動や学年をまたいだ縦割り班で、来校者への対応等、あらゆる学校場面で挨拶を励行する指導を実施してきたことから、生徒アンケートの「自ら進んで挨拶をしている」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合が昨年度より低くはあるが87%であった。 ○挨拶ができることの意義について全ての教職員で指導および評価を実施してきた。しかし、教員が「生徒が自ら進んで挨拶をしている」と感じる割合は35%であり、生徒の評価と解離がある。
			①毎月企画、運営している。 ②肯定的評価を行っている。	①毎月企画、運営している。 ②肯定的評価を行っている。			
○働き方改革の推進（業務改善への志向を含む）	<ul style="list-style-type: none"> 主任主事を中心とし、分掌・学年間で協働することで、円滑な業務推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定期的に分掌会、学年会を設定し、見通しをもって業務を行えるよう計画、調整を図る。 ②時間外勤務時間の削減。 	①分掌会、学年会の適正実施 ②個人目標を設定し、到達を目指す。	①分掌会、学年会の適正実施 ②個人目標を設定し、到達を目指す。	①A ②B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革アンケート」の結果から、「日々の業務の中で充実感を得られている」、「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある」の2項目の数値が低い。そのために、各分掌・学年で見通しをもった業務遂行をすることができれば、時間外勤務の削減に繋がると考える。全職員が笑顔で生徒の前に立つことができるよう、職員間のコミュニケーションを円滑にし、働きやすい職場にしていく必要がある。
			①学年会、生徒指導部は週一回実施。他の分掌も適宜行っている。 ②昨年度より削減を目標とし、実施中。	①適正に実施できている。 ②昨年度より削減できた。目標を見える化し、職員間での声を掛け合うことが早期退校日に繋がっている。			

【取組評価】 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60